耕作放棄地再生利用緊急対策交付金　実証ほ場　　クズ調査結果

●平成22年度結果

表1　平植栽培の生育状況　　調査日：11月15日

定植方法	収穫方法	活着率（%）	被覆率（%）	最大茎長（cm）
通常	茎＋葉＋根	100	18.9	146.2
	茎＋根	100	6.2	95.2
	根のみ	100	13.2	79.9
密植	茎＋葉＋根	97.2	36	111.3
	茎＋根	100	41.6	160.5
	根のみ	97.2	51.3	166.7

密植栽培の方が、被覆率、最大茎長ともに優れた。
ほぼ全ての株が、一度は活着した。

表2　樽栽培の生育状況　　調査日：11月15日

施肥方法	最大茎長（cm）	茎径（cm）
無施肥	98.3	5.1
園芸化成標準	107.4	5.3
園芸化成半量	154.1	4.5
園芸化成倍量	100.3	4.3
堆肥標準	105.3	4.6
堆肥倍量	123.5	4.4

最大茎長においては、施肥の効果が認められた。化成肥料と
堆肥の差は明確には出なかった。
茎径では、明確な施肥の効果は認められなかった。

●平成23年度結果

表1　平植栽培の生育状況　　調査日：7月26日　　＊最大茎長のみ6月6日

定植方法	収穫方法	活着率（%）	被覆率（%）	最大茎長（cm）	茎径（cm）
通常	茎＋葉＋根	100	31.5	195.8	8.1
	茎＋根	100	24.5	160.9	5.7
	根のみ	100	31.1	178.4	7.4
密植	茎＋葉＋根	97.2	71.4	163.7	7.2
	茎＋根	86.8	40	182.9	6.8
	根のみ	94.5	74.3	194.5	6.8

表2　樽栽培の生育状況　　調査日：7月26日　　＊最大茎長は6月6日

施肥方法	最大茎長（cm）	茎径（cm）
無施肥	186.9	7.4
園芸化成標準	152.4	9.3
園芸化成半量	208.6	8.2
園芸化成倍量	155	7.6
堆肥標準	185.9	7.1
堆肥倍量	186.5	7.1

●平成24年度結果

表1　平植栽培の生育状況　　調査日：7月18日

定植方法	収穫方法	活着率（%）	被覆率（%）	茎径（cm）
通常	茎＋葉＋根	80.6	36.9	8.3
	茎＋根	88.9	62.8	9.4
	根のみ	100	72	9.4
密植	茎＋葉＋根	80.6	83	6.2
	茎＋根	84.2	96.1	8.4
	根のみ	88.9	97.8	9.7

表2　樽栽培の生育状況　　調査日：7月23日

施肥方法	茎径（cm）
無施肥	7.5
園芸化成標準	4.5
園芸化成半量	8.5
園芸化成倍量	9.3
堆肥標準	10.3
堆肥倍量	7.3

【考察】
・平植栽培については、全体的にH23より茎の伸長が遅い（被覆率が低い）。これは、H24の方が、降雨日数が少なく、気温が高いことの影響と思われる。
・前年（H23）の夏に収穫を行ったところが、今年（H24）の伸長が最も悪い。逆に一番良いのは、前年に収穫していないところ。
・樽栽培については、堆肥を施用したところの方が、化成肥料を施用したところより生育が優れていた。また、化成肥料を施用したところでは、施用量が多いほど生育が優れていた。
　＊但し、樽栽培は欠株が目立つ（全体の欠株率が37%）ため、この考察が正しいかは不明

●平成25年度結果

表1　平植栽培の生育状況　　調査日：6月9日

定植方法	収穫方法	被覆率（%）	最大茎径（mm）
通常	茎＋葉＋根	73.4	11.7
	茎＋根	93.1	15.3
	根のみ	92.8	11.6
密植	茎＋葉＋根	97.8	8.5
	茎+根	97.4	10.7
	根のみ	100	14

【考察】
・毎年、夏に茎と葉、冬に茎を収穫する場合は、密植（定植間隔1m）しないと、定植後4年を経過しても、6月上旬時点では、クズが地表面を全て覆うまでは生育しない。
・地上部の茎径は、定植間隔が通常（＝2m間隔）のところの方が太くなっている傾向が見られた。

表2　平植栽培の生育状況　　調査日:7月21日

定植方法	収穫方法	被覆率(%)	最大茎径(mm)
通常	茎＋葉＋根	96	11.7
	茎＋根	92.3	16.2
	根のみ	100	14
密植	茎＋葉＋根	100	11.1
	茎+根	100	13.7
	根のみ	100	12.4

【考察】

・定植後4年経過した7月下旬時点では、ほぼ全ての区で、クズが地表面を、覆い尽くすまで生育した。

・被覆率が100%に達していない区は、欠株が出た影響を受けている。逆に言うと、2mの定植間隔では、欠株の影響を受ける可能性があると言える、

・地上部の茎径は、定植間隔が通常(＝2m間隔)のところの方が太くなっている傾向が見られた。